

6 . 地域整備計画

地域整備計画の地域区分にあたっては、市全域を4つのゾーンに区分した前期行動計画の構成を継続して採用することとした。また、4つのゾーンを構成する各地区については、後期行動計画では、概ね下記のように位置づけることとした。

都市・産業共生ゾーン (東 部 地 域)	太田駅を中心にして、概ね旧太田市の太田、九合、沢野、葦川、休泊の5つの地区とその周辺から地域を形成します。
地区・環境共生ゾーン (西 部 地 域)	概ね旧太田市の鳥之郷、宝泉、旧尾島町の尾島、世良田、旧新田町の木崎、生品、綿打の7つの地区とその周辺から地域を形成します。
地区・調和共生ゾーン (北 西 部 地 域)	概ね旧藪塚本町の藪塚東部、藪塚西部の2つの地区とその周辺から地域を形成します。
交流・保全共生ゾーン (北 東 部 地 域)	概ね旧太田市の強戸、毛里田の2つの地区とその周辺から地域を形成します。

都市・産業共生ゾーン（東部地域）

1 地域の概況と課題

当該地域には、太田駅を中心として東武伊勢崎線、東武桐生線、東武小泉線の3本の鉄道が走り、また、国道407号、122号、県道前橋館林線を中心に骨格道路が形成され、さらに、太田東部幹線の整備が予定されており、本市における交通の要衝地を形成しています。

当該地域の北側には、金山や大光院に代表される豊かな自然や歴史が多く残っており、地域住民のみならず市民の貴重な財産となっています。

中心市街地では、まちの活気が失われつつあります。太田駅周辺については、太田駅の高架が完成して、南北の一体化が図られています。また、北口駅前ロータリーが共用を開始しました。

2 地域の将来像

当該地域は、太田市中心市街地にふさわしい魅力ある多様な都市的機能の集積と快適な広域交通体系及び良好な市街地環境と居住環境の形成が求められていることから、近隣の大泉町・邑楽町との地域連結等の地域特性を活かした土地利用整備の検討が求められています。

そのため、地域の将来像を「中心市街地にふさわしい魅力と活気あるまち」として、次のようなまちづくりを目指します。

商店街ににぎわいがあるまちをつくります。

広域交通拠点を形成します。

高齢者や障がい者にやさしく災害に強い都市空間を整備します。

自然的環境や歴史的遺産と都市的環境とが調和する環境を形成します。

骨格幹線道路の整備と併せた良好な住環境を形成します。

優良農地を保全し、農業振興を図ります。

太田駅北側の大規模工業地は、都市型工業の拠点として工業機能を維持します。太田駅周辺地区の一部については、商業機能と住宅機能を併せ持った複合住宅地として位置づけ、再開発事業等により中高層の良好な街並み、住環境を創出します。

地区・環境共生ゾーン（西部地域）

1 地域の概況と課題

当該地域には、豊かな田園地帯、多くの歴史的遺産や屋敷林などの樹林地など原風景が残されており、市民の貴重な財産となっています。

当該地域には、田園集落空間が広がる中で、大規模工業団地が散在し、その周辺で住宅地や小規模店舗の立地等が見られます。

また、近郊農業が盛んな土地改良事業が実施された優良農地では田園風景の基礎を成しています。

2 地域の将来像

この地域は、自然環境を保全整備する役割と北関東自動車道の整備に伴う産業拠点としての大きな役割があります。そこで、この地域の将来像を「自然や歴史的資源の豊かな原風景と産業環境が調和したまち」とし、次のようなまちづくりを目指します。

地域バランスに配慮して生活拠点、福祉・文化交流拠点を形成します。

原風景と調和した新たな産業拠点を形成します。

環状道路、放射道路等幹線道路の整備に併せた良好な住宅地を形成します。

市街地及び幹線道路に配慮した救急医療拠点を形成します。

歴史・文化遺産を保全整備し、魅力的なまちづくりを推進します。

豊かな湧水、河川緑地や樹林地など自然環境や優良農地を保全します。

大規模商業施設、多目的ホール、展示施設、親水公園等は「新田地域拠点」として位置づけ、地域内に散在する大規模工業団地等は「産業拠点」として位置づけ、原風景との調和を図り、生産性の高い工業拠点機能を強化・育成します。

利根川、早川、石田川の3河川は、都市の骨格を形成する河川であるとともに、身近な自然環境を提供する市街地内の貴重なオープンスペースであり、小動物の生態系に十分配慮して、親水空間の保全及び活用、自然にやさしい緑化護岸等の整備を促進し、自然環境の保全に努めます。

この地域を東西に走る日光例幣使道は、「歴史の散歩道」として、歩行者系道路として位置づけます。

新田荘遺跡円福寺境内など新田氏関係の史跡を整備するとともに、それらを核として「中世史ネットワークづくり」に努めます。

地区・調和共生ゾーン（北西部地域）

1 地域の概況と課題

北西部地域は、比較的平坦な地形を活かして農業を中心とした都市として発展してきたことから、当該地域の東側に位置する八王子丘陵をはじめ、豊かな田園地帯と岡登用水などは、地域住民のみならず、市民の貴重な財産となっています。

本地域は区域区分の定めない非線引き都市計画区域であり、区域区分の指定を行い、新生太田市として都市計画区域の統合が必要となっています。

八王子丘陵は豊かな自然環境が残された貴重な財産であり、また、岡登用水は河川のない本地域にとって貴重な水辺空間です。農業生産は施設園芸等を主力に首都圏の生鮮野菜の供給地となっています。

北関東自動車道は、本地域の土地利用条件を高め、道路交通における利便性の向上とともに、産業系及び住居系における開発需要等が高まるものと期待されています。

2 地域の将来像

この地域は、自然環境を保全整備する役割と北関東自動車道の整備に伴う産業拠点としての大きな役割があります。そこで、この地域の将来像を「優しさとやすらぎに満ちた思いやりのあるまち」とし、次のまちづくりの目標を定めます。

豊かで質の高い永住環境を創造する都市づくりを進めます。

地域産業の活性化などにより地域の個性を創造する都市づくりを進めます。

お互いを尊重して助け合いながら住民が躍動する都市づくりを進めます。

広く地域内外の人々が憩い、ふれあい、オアシスとなる都市づくりを進めます。

地域の特性を活かした、美しいまちづくりを推進します。

合併後 10 年（平成 26 年）を目途に土地利用の見直し（区域区分及び用途地域指定）を図ることとされていることから、それまでの間、特定用途制限地域の指定を行うとともに、用途地域の指定や地区計画等の手法の活用を検討し、良好な住環境の形成に努めます。

農業、商業、工業の合理的な秩序ある土地利用の確立に努めます。また、歴史ある「やぶ塚温泉」を、活かした周辺環境の保全を推進します。

交流・保全共生ゾーン（北東部地域）

1 地域の概況と課題

石橋地区商店街を中心とした生活拠点を有するとともに八王子山系など豊かな自然環境や農地の保全地域としての役割を担っています。

更に、国道 50 号沿線に工業系の団地が形成され、新しい産業拠点を合わせ持つようになりました。

北関東自動車道の整備に伴う、インターチェンジ周辺の幹線道路網整備が課題となっています。また、周辺の自然環境に配慮したパーキングエリアの整備も課題となっています。国道 50 号沿線に太田リサーチパーク、太田流通団地や東部工業団地など産業拠点が立地しており、北関東自動車道の整備により立地条件が向上したことから、新しい産業拠点として強化・育成を図るため、相互に機能が連携する産業地域としての整備が課題となっています。

2 地域の将来像

この地域は、自然環境を保全整備する役割と北関東自動車道の整備に伴う産業拠点としての大きな役割があります。そこで、この地域の将来像を「産業拠点と自然環境が調和するまち」とし、次のまちづくりの目標を定めます。

新しい産業拠点を形成します。

北関東自動車道を中心とした道路交通網体系を整備します。

地域の歴史的環境を保全整備します。

豊かな自然環境や優良農地を保全します。

国道 50 号沿線と北関東自動車道太田桐生インターチェンジ周辺は、優良農地や自然環境の保全を図りながら、産業業務拠点の形成を推進します。北関東自動車道の整備に併せ、太田桐生インターチェンジ周辺を中心に新たな工業用地の確保を検討し、工業機能や流通機能の集積を図ります。八王子山公園や渡良瀬川河川緑地及び北部運動公園を核に緑の環境整備やその保全を図ります

ゾーニングイメージ図

